

事務事業名		下水道施設維持管理事業(浄化センター)			☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業								
政策体系	政策名	02自然豊かな環境の保全と創造			事業期間		予算科目								
	施策名	05環境の保全と共生					会計	款	項	目	事業				
	基本事業名	02港湾・河川環境の保全			☐ 単年度のみ		13	01	01	02	00				
所 属	根拠法令	下水道法			☒ 単年度繰返 (開始 6 年度～)										
	部課名	都市整備部 下水道事業所			☐ 期間限定複数年度 【計画期間】										
	係 名	業務係	電話 内線	0192-27-3111 201	年度 ~ 年度 全体計画欄の総投入量を記入										
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)											全体計画(期間限定複数年度のみ)				
大船渡町にある浄化センターの運転管理、環境整備などの施設および設備の管理を行う事業。また、定期的に点検整備・修繕工事(委託)をし、必要に応じて機器の取替え、更新を行う。 主な業務は、施設運転管理(委託)、定期点検整備(委託)、修繕工事(委託)。 事業費は、施設運転管理などの委託費用として支出される。											総 投 入 量 (千 円)	事 業 費	財 源 内 訳	国庫支出金	
														都道府県支出金	
														地方債	
														その他	
														一般財源	
														事業費計 (A)	0
														正規職員従事人数	
延べ業務時間															
人件費計 (B)	0														
トータルコスト(A)+(B)										0					

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
手段(主な活動)		名称	
前年度実績(前年度に行った主な活動)		単位	
施設運転管理(委託)、定期点検整備(委託)、修繕工事(委託)		ア	浄化センターの点検・維持補修箇所数
今年度計画(今年度に計画している主な活動)		イ	
前年度と同じ		ウ	
対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等		対象指標(対象の大きさを表す指標)	
・下水道共用開始地区で集められた汚水		名称	
・浄化センター		単位	
・下水道利用者		カ	流入水量(日最大)
意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		キ	浄化センター汚水処理能力
汚水を水質基準に適合するように適正に処理する。		ク	供用開始人口
結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)		成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
港湾・河川への環境負荷を軽減し、公共用水域の水質を保全する。		名称	
		単位	
		サ	放流水BOD(生物化学的酸素要求量)
		シ	
		ス	

(2) 総事業費・指標等の推移			年度	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (実績)	20年度 (実績)	21年度 (実績)	22年度 (実績)
			単位						
投入量	事業費	国庫支出金	千 円						
		都道府県支出金	千 円						
		地方債	千 円						
		その他	千 円	68,531	64,338	75,857	73,785	76,905	79,342
		一般財源	千 円						
	事業費計 (A)		千 円	68,531	64,338	75,857	73,785	76,905	79,342
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1
		延べ業務時間	時 間	24	24	24	24	24	24
		人件費計 (B)	千 円	96	96	96	96	96	96
		トータルコスト(A) + (B)		千 円	68,627	64,434	75,953	73,881	77,001
活動指標		ア	箇所	1	3	9	8	7	6
		イ							
		ウ							
対象指標		カ	m³/日	2,670	3,558	2,552	3,953	4,012	4994
		キ	m³/日	3,200	3,200	6,400	6,400	6,400	6,400
		ク	人	8,456	9,706	10,432	11,104	11,726	11,726
成果指標		サ	mg/l平均	2.8	3.1	2.5	1.5	3.1	2.2
		シ							
		ス							

事務事業ID	0707	事務事業名	下水道施設維持管理事業(浄化センター)
(3) 事務事業の環境変化・住民意見等 この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 平成6年に浄化センターが開設され、公共下水道事業の一部共用開始により、その維持管理が必要となった。			
事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？ ・盛町全域並びに大船渡町(須崎川以南の笹崎、永沢地区)、赤崎町の一部の供用開始区域拡大に伴い、平成22年度には流入水量(日最大)が4,800m ³ /日に達することが見込まれる。 ・浄化センターの放流水が注ぐ、大船渡湾の水質は、ほぼ現状維持の状態にある。 ・区域内の下水道普及率は徐々に高まっており(21年度末時点28.6%)、3年以内の接続が義務づけられている。 ・H23.3.11震災により被災し、復旧が最優先課題となった。			
この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？ 特になし			

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある [理由]  ☒ 結びついている [理由]  浄化センターの維持管理は、大船渡湾をはじめとする公共用水域の水質保全につながる。その結果、居住環境の向上に結びつく。	3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	公共関与の妥当性 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある [理由]  ☒ 妥当である [理由]  公共施設の適正な維持管理(委託)は、市の義務であり、大船渡湾をはじめとする公共用水域の水質保全にもつながるので妥当である。	3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある [理由]  ☒ 適切である [理由]  供用開始区域の拡大に伴い汚水処理量の増加が見込まれる。その対応として、17・18年度に施設の増設を行った。	3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
有効性 評価	成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☐ 向上余地がある [理由]  ☒ 向上余地がない [理由]  現在でも水質基準(15mg/1平均)を達成しており、その水準を維持していく方針である。	3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 [理由]  ☒ 影響有 [その内容]  適切な汚水処理ができなくなってしまうため、本事業を廃止・休止することは、公共用水域の水質汚濁につながる。	3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある  (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる [理由]  ☐ 統廃合・連携ができない [理由]  庁内に類似事業はない。浄化センターの維持管理は、専門的な知識、ノウハウを要するため、現状では他の手段は考えられない ☒ 他に手段がない [理由] 	3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
効率性 評価	事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☒ 削減余地がある [理由]  ☐ 削減余地がない [理由]  浄化センターの維持管理は、委託業務で行っており、一般的には汚水処理量の増加に伴って、委託費用も増加していく傾向があるが、本市では、業務内容を精査(処理水の利用、機械設備修繕のタイミングなど)して、その増加を抑えてきている。	3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある [理由]  ☒ 削減余地がない [理由]  平成14年度には、主に電気・計装関係の委託業務を見直して、市の職員を2名から1名減員し、平成16年度にも1名減員した。浄化センターの維持管理を全面委託していることから、コストの縮減は図られている。	3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある [理由]  ☒ 公平・公正である [理由]  特別会計の下水道使用料で実施している事業であり、受益者の負担は適正である。	3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること)	(2) 全体総括(振り返り、反省点)													
<table><tr><td>目的妥当性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr><tr><td>有効性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr><tr><td>効率性</td><td>☐ 適切</td><td>☒ 見直し余地あり</td></tr><tr><td>公平性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr></table>	目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	浄化センター維持管理業務に係るより効率的な方法の検討。	
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり												
有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり												
効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり												
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり												
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可)	(4) 改革・改善による期待成果													
<table><tr><td>☐ 廃止</td><td>☐ 休止</td><td>☐ 目的再設定</td><td>☐ 事業統合・連携</td><td>☐ 現状維持</td></tr><tr><td colspan="5">事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☒ 効率性改善 ☐ 公平性改善)</td></tr></table> (上記方向性に対する具体的な内容) 浄化センター維持管理業務委託についての検討する必要があるが、H23.3.11震災復旧が最優先課題となっており、委託の見直しは後年度の課題とする。	☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☐ 現状維持	事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☒ 効率性改善 ☐ 公平性改善)					左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要)			
☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☐ 現状維持										
事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☒ 効率性改善 ☐ 公平性改善)														
<table><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td>●</td><td></td><td>×</td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td>×</td><td>×</td></tr></table>		成果	向上				維持	●		×	低下		×	×
成果	向上													
	維持		●		×									
	低下		×	×										
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等														
直営管理体制のままでの包括的民間委託方式の導入の可能性など管理体制のあり方について研究する必要がある。														

(職 名) 原則として施策の主管課長

4 事務事業の2次評価結果

2次評価者

下水道事業所長

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)

- ☐ 記述不足でわかりにくい
☐ 一部記述不足のところがある
☒ 記述は十分なされている

評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)

- ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない)
☐ 一部に客観性を欠いたところがある
☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)

(2) 2次評価者としての評価結果

- | | | |
|-------|--|---|
| 目的妥当性 | ☒ 適切 | ☐ 見直し余地あり |
| 有効性 | ☒ 適切 | ☐ 見直し余地あり |
| 効率性 | ☐ 適切 | ☒ 見直し余地あり |
| 公平性 | ☒ 適切 | ☐ 見直し余地あり |

(3) 評価結果の根拠と理由

浄化センター維持管理に係る効率的な方法の検討。

(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可)

- | | | | | |
|--|-----------------------------|--------------------------------|----------------------------------|-------------------------------|
| ☐ 廃止 | ☐ 休止 | ☐ 目的再設定 | ☐ 事業統合・連携 | ☐ 現状維持 |
| 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☒ 効率性改善 ☐ 公平性改善) | | | | |

(上記方向性に対する具体的な内容)

包括的民間委託方式の導入等の可能性を検討する。

(5) 改革・改善による期待成果

左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。
(廃止・休止の場合は記入不要)

成果	向上 維持 低下	コスト		
		削減	維持	増加
	向上			
	維持	●		×
	低下		×	×

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項